

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292500053		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム南流山		
所在地	千葉県流山市鱈ヶ崎1311		
自己評価作成日	平成24年1月25日	評価結果市町村受理日	平成24年3月27日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Tod.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成24年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 入居者様の一人ひとりを良く知る事で、その人らしい生活が出来る様、最大限に努めております。施設に入居されたから出来ないのではなく、『施設に入居したからこそ出来る』と思っております。ご家族様・入居者様の想いが実現出来るようお手伝いをさせて頂き、施設での生活が少しでも良かったと思っ頂けるよう努めております。
 2. 一人ひとりの居場所があるよう、役割を大事にしております。生活の場・地域社会などといった形で、外出などの機会作りに最も力をいれております。
 3. 職員が心地良く働け、やりがいを感じて頂けるよう介護職員としての日々のスキルアップ、また高齢者の方々からの人生の教を頂く事により、人間としての成長の場であると考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の3つの基本理念を基に「入居者一人ひとりを良く知り、個々を大切にしたケアを実践します・入居者と職員の笑顔溢れる心地よい明るいホームを創ります」とのホーム独自の介護方針を掲げている。新しく赴任したホーム長の下、出来ない理由を考えるのではなく、出来る理由を考え「ホームに入居したからこそ出来る」ことを見出し、入居者一人ひとり役割・張り合いのある自立した生活が出来るよう入居者本位のケアサービス提供に努めている。アンケートで全ての家族が「全ての職員が生き生きと働いている」と回答している通り、職員が明るく笑顔で入居者と接し、入居者も共に穏やかに笑い合っている姿が印象的であった。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社、事業所の運営理念は常に申し送り、会議の際に唱和を行っております。また、休憩所にも掲示していることにより、職員の意識の統一を図っております。	法人の3つの運営理念と事業所独自の介護方針を申し送りや会議時に唱和し、休憩室にも掲示する等理念と方針の共有と職員意識の向上を図っている。特に、「入居者一人ひとりを良く知り、個々を大切にケア」「入居者・職員の笑顔溢れる心地よい明るいホーム創り」を職員全員が目指し、実践するよう努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣小学校の下校時間時に、地域活動の一環として、「見守り隊」を行い、継続出来る様支援しております。また、自治会の催し物・小学校の行事にも積極的に参加しております。	自治会の盆踊り・歌の会や小学校の敬老会等の行事に多くの入居者が参加している。中学生の職場体験の受け入れや小学生の下校時の「見守り隊」として毎日小学生と会話したり、植木や沖縄舞踊・人形劇など地域のボランティアの方々に来て頂く等、地域の一員として日常的な付き合いが出来つつある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターが主催する「認知症の会」の出席、民生委員を通じて行事などの参加促進に取り組んでおります。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況、入居者様状況など写真も交えながら報告を行い、無記名アンケートなどを用いてご意見を頂いております。	市職員・民生委員・自治会員・家族・入居者などの出席を得て、敬老お祝い会やお餅つき等の行事を旨くからめ、又家族会とも連動させる等工夫をして2ヶ月に一度定期的に開催している。入居者の状況・活動報告・外部評価等を議題とし、又、職員の異動なども報告し、出席者とも活発な意見交換がなされ、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加をお願いし、ご家族様にも目を向けて頂けるよう環境作りを行っております。また、グループホーム連絡会など交流の場を用いて積極的に関係性を密にしております。	グループホーム連絡会の場や日常の連絡報告等の場で、市の職員の方たちと積極的にお話をするようにし、特にグループホームの一泊旅行の実施などについて具体的な相談とアドバイスを頂く等良好な関係が築けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議などで意識の統一性を図り、基本方針の掲示を行っております。また、ケア推進課など相談窓口などもあり身体拘束推進運動を会社全体で行っております。	身体拘束排除方針を目につきやすい場に掲示したり、会議で身体拘束について赤外線センサーも間接的な拘束に当たると言葉による拘束等具体的な事例を取り上げて話し合う等、身体拘束についての意識の統一を図っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の始まりとされる声掛けに気を配り、全職員入居者様を敬う姿勢に常に気を配りながら、全職員虐待防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の大切さを職員自身に感じてもらうよう、会議内では必ず場を設けております。成年後見制度を学ぶ機会が少ない為、外部の研修などに取り組む事が課題です。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に重要事項説明書、契約書の読み合わせを行い、不安や疑問に対して説明をし、理解、同意を頂いております。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にはご意見箱を設置し、会社として年に1回のアンケートを行っております。御家族が来設の際には積極的に話し掛けるように心掛けております。	写真と手書きの手紙を添えた「南流山愛の家だより」で入居者の状況を毎月報告している。家族会が機能しており、多くの提案やご意見が頂けている。温泉旅行がしたい・居酒屋などの個別リクレーションなどの要望を実現している。又、法人の実施するアンケートや外部評価のアンケート等にも重きを置き、運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な個別面談、年1回の職員アンケート、スタッフサジェッションシステム等を使い、職員の意見を反映できるような取組みを行っており、会議等でも発言しやすい環境作りに努めております。	スタッフサジェッションシステムという法人への提案制度があり、各職員からの提案が運営に反映されている。事業所内では職員は会議や個別面談などで管理者に気軽に意見要望を言い易く、又、運営に反映するよう良く取り組んで頂けていると言っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員アンケート、表彰制度、個人能力評価等があり、個々の実績、勤務状況の把握に努め、職場の環境整備を行っております。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社には、標準介護教育カリキュラムがあり、ホーム内で利用しております。全体会議などでのホーム内研修、外部研修の告知を行い、受講の機会を設けております。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホーム研修、合同イベント等を用いて、相互の問題について考えあう機会を作っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>話しやすく、なるべく気を使わずに済むような環境作りを行い、職員同士の情報交換により、更に安心して生活していただけるように関係を蜜に努めております。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ホーム見学時、契約時等を通じ、御家族の不安、要望に耳を傾け、良好な関係作りに努めております。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>丁寧なアセスメントを心掛け、御本人、御家族のニーズを探り、把握に努め、個々の必要とするサービスに対応できるように取組んでおります。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>生活の場の主役が入居者様であるように、一人ひとりの役割の尊重を行い、共に支えあう環境に努めております。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>月1回のホーム便りで、ホームや入居者様の近況を報告し、御家族も参加できる行事を設けております。また、御家族が、いつ来られても入居者様とゆっくり過ごせる環境作りに努めております。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>御本人の友人が、いつ来られても、職員が対応できるよう配慮しております。同窓会、コンサートへ出かける等、御家族の協力の下、入居前の関係の継続に努めております。</p>	<p>友人が訪ねてくる方、同窓会やお墓参りやコンサートに家族がお連れし懐かしそうに帰ってくる方、年賀状のやり取りを職員がお手伝いする方等、馴染みの関係を大切にしている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>適宜、フロアの配置、席替えを行っております。買物等も交替で行くように心掛け、外出レクなどは、全員揃って行く事ができるように配慮している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談や支援を行い、築いた関係は大切にしていこうと努めております。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	半年に1度センター方式を使用しております。 職員間で情報を共有し、本人の要望や意向の把握に努めております。	「本人がどうしたら輝くか」という視点で、本人のしたいことや思いをいかに引き出すかを考慮し、利用者を知ることが大切に行っている。短時間であっても、一人の利用者だけを見ることで、表情、目線、動きから判ることがある。気付いたことから想像を膨らませ、それをスタッフ間で共有している。センター方式のCとDのシートを居室担当者が記入し活用している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントで、それまでの暮らし方やサービス利用の経過を把握し、御家族の面会時には、少しでも話をするように心掛け、過去の生活についての情報収集に努めております。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事量、水分量、排泄回数、バイタルなど、毎日チェックを行っております。 その日の過ごし方は個人記録に記入し、現状の把握を欠かさないようにしております。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャー、ユニットリーダーが中心になり、会議等で職員間の情報共有を行い、計画に対してのモニタリングを行っております。必要に応じて、往診医を交えて御家族とのカンファレンスを行っております。	「サービス者担当会議」様式を居室担当者が記入。ケアマネジャーは短期目標ごとにモニタリングを行うとともに、家族の意向を聞いている。ユニット会議の前に居室担当者が前回からのサービス内容、評価、振り返りと現状(モニタリング)、今後の方向性と課題(アセスメント)を記入している。会議にて職員から短期目標の変更などの意見や、「こうしたら輝いています」という気付きを聞きケアプランに取り入れている。短期目標もチームで共有して支援できている。	欲を言えば、本人・家族・ケアマネジャー・居室担当者が参加するサービス担当者会議を実施する等、更に本人や家族の意見等を反映する工夫をしていかれることを期待します。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特変事項や、会話中のちょっとした変化、行動の変化を個人記録、日報に記入し職員間の情報の共有を行っております。それを基に適宜計画の見直しを行っております。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や御家族の状況により、往診だけでなく、受診に付き添うなど、柔軟なサービス体制をとっております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	園芸ボランティアをお願いしたり、地域新聞などを有効活用し、協働に努めております。また社会との繋がりが切れないよう日常の生活支援を行なっております。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問美容を利用したり、朝の整容時は鏡の前で、自分の姿を見ながら行うようにしております。服装についても、個人の意思を尊重しております。	訪問歯科、訪問看護が週に1回、往診が2週間に一度となっている。眼科や耳鼻科の受診には職員の同行もある。受診記録には、訪問看護師や往診医への質問、医師の処置内容や回答も記入される様式となっており、日々のバイタルも同じ健康管理記録ファイルで確認できるよう工夫している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護用の記録を行い、毎週水曜日には、どの職員が担当になっても訪問看護師に報告が行なえる環境に努めております。またそれに伴い、一人ひとりの知識向上に努めております。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様の入院希望先を把握しており、入院の際には担当医、御家族との連絡を密にしながら早期退院を目指している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合における医療体制指針」を文書にて説明し、同意を得ております。また終末期を迎える際はご家族様とのカンファレンスを行い、事業所で最大限に取り組みめる範囲で支援しております。	入居時に「重度化した場合における医療体制指針」を文書で説明し同意を得ている。入居者の状態が変わった時にもカンファレンスを行って方針を共有するようにしている。職員間にて看取りを行える理由を探し、1例看取りを支援することができた。看取り後、職員でエンゼルケアを行い、皆でお見送りをすることができた。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修や外部研修を行い、また全職員、救命講習を受けております 救急対応マニュアルを基に、24時間体制で往診医との連絡がとれるようになっております。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施し、消防計画に基づき訓練しております。また地域の協力体制が行なえるよう、日々の地域交流の場を大切にしております。	2月にスプリンクラーの設置が完了する。防火自主点検を毎日行っている。緊急時の召集で10分以内に集まれる職員は4名となっている。備蓄の用意もある。	夜間召集訓練、夜間想定訓練、毛布での搬送を全職員が体験できるようにしておきたいとのことであり、ミニ避難訓練を頻回に行い、イザという時にスムーズに避難できるよう習熟しておかれることを期待したい。地域に消防団があるとのことであり、連携をとっておかれることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報、鍵のあるところに保管しております。職員の言葉かけにも気を配り、人格を損なう事の無いように努めております。	利用者への声かけで気になることがあれば、会議で取り上げ話し合っている。ご本人が淋しそうな時などは、職員がおじいちゃんやおばあちゃんと接するように、また職員が利用者に対していろいろな役割をするようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	10時のお茶の時間には、何種類かのメニューから選んでいただくなど、常に自己決定できるような会話の工夫を行っております。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中の居室での休息、夜の入浴等、入居者様本人のペースに合わせた支援に努めております。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用したり、朝の整容時は鏡の前で、自分の姿を見ながら行うようにしております。服装についても、個人の意思を尊重しております。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は個々の能力に応じて、できる事をしていただいている。定期的に入居者様の好みの食事を作り、外食の際には、好きなものを個別に選んでいただくようにしております。	利用者の食べたいという声に応えるようにしている。外食は月に一度、おやつは手作りの時もある。利用者は調理と片付けを手伝っている。お好み個別外食ではステーキ、お寿司、ラーメンを楽しみ、居酒屋に行くこともある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	買物の際にバランスを考えた食材選びをし、食事量、水分摂取量のチェックは毎日行っております。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合った口腔ケアを行い、週1回訪問歯科往診を用いて適切な管理指導を受けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を基に個々のパターンを把握しております。夜間の様子は職員間で申し送りを行い、失敗を減らし、極力おむつ等には頼らない対策を考えております。	職員が一人ひとりの排泄のパターンを把握し誘導する等トイレでの自立排泄に向けた支援によく取り組んでいる。夜間おむつ使用者は1名、リハパン2名、その他の方はパット対応となる。日中は全員が布パンツを使用しており、リハパン使用から布パンへ改善した人もいる。夜間のみ、ポータブル使用の方が1名いる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルト、オリゴ糖を用い、すぐに薬に頼らない様に心掛けております。運動の為、極力外に出る機会を作っております。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴中は、本人の意思を尊重し、職員が必要以上に介助を行わない様に心掛けております。また、夜の入浴等、時間帯も幅広く対応しております。	入浴予定表をなくし、入居者の入りたい時に入浴を楽しめるよう支援している。週に2～3回の入浴となっている。基本は午後入浴となっているが、夜間に入る方も2名いる。ゆず湯や入浴剤を取り入れている。長風呂を楽しむ方もいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に就寝時間を設ける事をせず、本人の意思に任せて休んで頂く様にしております。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の使用について理解し、適宜往診医へ相談しております。変更があった場合も、全職員が把握できる体制になっており、その後の様子観察を行っております。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の思考を尊重し、お酒の好きな人には晩酌の時間を設けております。ピアノ、書道セット、絵画や写真を居室に置き、個人の趣味を活かせる様に配慮しております。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩に出かけ、買物の際には入居者様と一緒に行動しております。月に1度以上は全員で観光等の外出をし、同時に外食もしております。また個別でもその機会を増やすように努めております。	利用者と一緒に買い物に行っている。天気の良い日は散歩に行っている。「階段の昇り降り」がプランに入っている方は、牛乳購入担当役として階段昇降とともに外出できるよう支援をしている。平日の朝と夕方、ホーム前の通学路に見守り隊として立つ方もいる。成田山や靖国神社、お花見や柴など外出行事も良く行われている。昨年12月に家族の協力も得て日光・鬼怒川温泉への一泊旅行を成功させるなど意欲的に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様には、常日頃自由に使えるお小遣いがある事を伝えております。外出時には各々財布を所持し、支払いなどは入居者様に行なっていただけるように支援しております。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話は、いつでも使えるようにしており、外出先で買った御家族へのお土産がある時などは、すぐに本人から連絡をして頂き、自由に連絡がとれる様になっている事を分かって頂く様に努めております。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	階段や通路に行事の写真を貼り、生活感のある雰囲気を作っております。 入居者様と一緒に作る手作りのカレンダーや、その月の行事内容を掲示し、季節感を出すように努めております。	額入りの油絵が10点飾ってある。外出行事を中心とした写真や花を飾っている。手作りカレンダーや習字、大きな字で記入された今月の予定が掲示されている。ベランダは広くベンチとテーブルが設置されており、お茶を楽しむこともある。ソファでは晩酌を楽しむ方もいる。カーテンを工夫し、光をさえぎりつつ外が見えるようにした。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには、誰もが自由に使えるソファや椅子を用意しており、晴れた日にはベランダに置いてあるテーブルの回りで季節感を得ながら会話やお茶を楽しめる様にしております。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者様、御家族の置きたい物を自由に置いて頂いております。 また、お客様が来られた時にゆっくりできるスペースも確保しております。	エアコン、電気、カーテン、ベッド、クローゼットが完備。各部屋の入口にはネームプレートをかけている。お部屋は利用者と一緒に掃除し、利用者にはほうきを担当してもらい、職員が掃除機掛けをする。レイアウトは家族が決めている。持参されたものとしては、テレビ、電子ピアノ、タンス、仏壇、神棚、油絵などがある。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりだけでなく、見守りながら物伝いに歩ける様に家具の配置を工夫したり、トイレや居室も本人に分かるように、マークや表札をつけております。		